

保護者アンケート報告

保護者の皆様には、“よりよい幼稚園づくり”のためのアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。ご提出いただきましたアンケートをまとめましたので、ご報告いたします。（保護者アンケート結果については、麴町幼稚園ホームページにも掲載いたします。）

皆様から承ったアンケート集計のデータから読み取れることを参考にさせていただき、今後の教育内容の充実・改善を図ってまいります。自由記述のご意見につきましては、同様の内容が複数重なるものを中心に1月の保護者会でご回答させていただきます。

なお、令和4年度の教育課程（「年間行事予定」を含む）については、3月の保護者会においてご説明いたします。

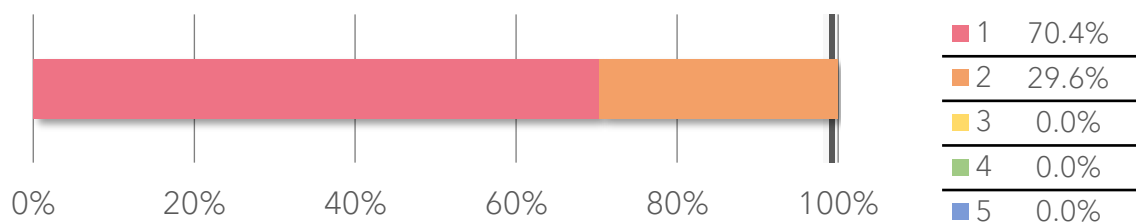
※アンケートの集計

園児数(12/1日現在) 84

提出数 81

1	2	3	4	5
とても思う よくあてはまる	そう思う だいたいあてはまる	あまり思わない あまりあてはまらない	まったく思わない まったくあてはまらない	判断できない よく分からない

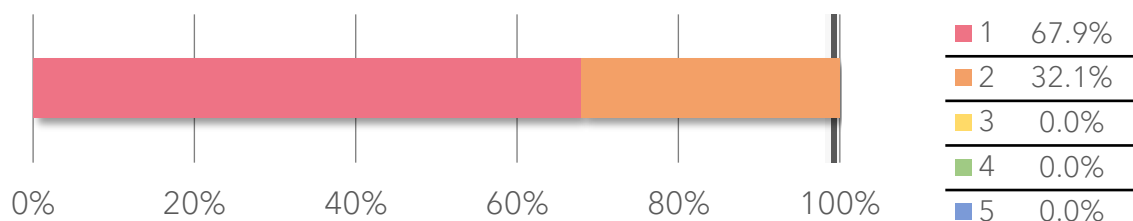
Q1：子どもたちは、様々なことに興味をもち、自分で考えて取り組んだり、挑戦したりしながら遊ぶことを楽しんでいると思いますか。



■幼稚園では、学級で取り組む、自分が選んだ遊びをする、など発達に応じてバランスよく一日を組み立てています。自分で「選ぶ遊び」の時間内に見通しをもち、鬼の面やお雛様づくりなど課題の制作に自分のペースで取り組み、仕上げていく、という活動もあります。自ら心を動かし環境に関わって主体的に取り組むことで、遊びの中の学びも広がりや深まりをみせていきます。

引き続き、幼稚園では、造形・表現・音楽・言葉・運動・自然など多様な側面から、子どもが自ら「やってみたい」「次はこうしたい」という意欲をもって試したり工夫したりしながら楽しむ環境を工夫し、経験を広げたり深めたりできるような保育の充実に努めます。

Q2：子どもたちは、先生や友達と関わって遊ぶ中で、コミュニケーション能力の基礎が育まれていると思いますか。

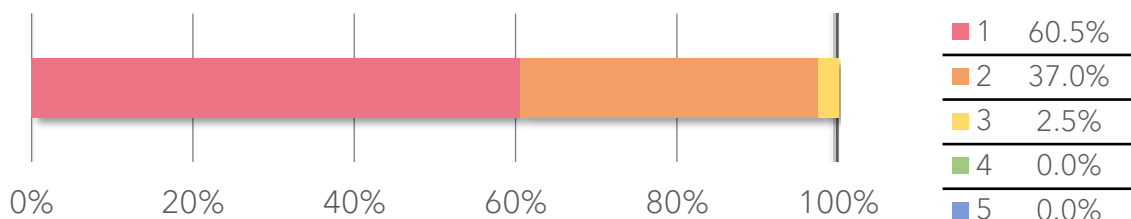


■多くの子どもたちにとって、家族から離れて初めての集団生活となる幼稚園では、いろいろな人に関わり、共に生活を進めることへの期待や喜び、心地よさの積み重ねがとても大切です。コミュニケーション能力の基盤にも大きくつながっていきます。

入園当初、まずは安心して生活するよりどころとなる教師との信頼関係をしっかりと育み、徐々に周囲の友達に関心や親しみを広げていきます。そこで自分の思いが伝わる嬉しさ、人それぞれの違った考えとの出会い、思いのすれ違いや共感など、様々な経験を重ねていきます。年長にもなると、友達と相談や協力をしながら遊びや生活を進めたり、互いの良さや考えを認め合ったりする姿も生まれてきます。

引き続き幼稚園ではこのような経験の積み重ねを大切にし、人と関わる力を豊かに育む保育の充実を図ってまいります。

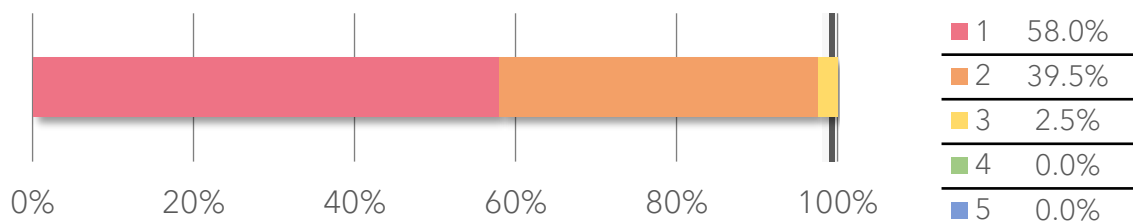
Q3：子どもたちは、健康や園生活に必要な習慣を身に付け、安心して生活を進めていると思いますか。



■不安や緊張のある環境では、健康的な生活を営むことは大人でも難しいものです。幼稚園では、安心してやりたいことを伸び伸び取り組み楽しむ中で、健康な心と体を育てていきます。

生活習慣の習得は、園生活における自信や安心感に大きくつながります。手洗い・身支度などの日常の習慣や、並ぶ・集まる・待つ・きまりを守るなど集団生活に必要な習慣を個々のペースで身に付けていかれるよう、自ら気づき主体的に生活できる環境や時間を整えています。安心して心と体を十分に動かして過ごす生活の中では、時間の流れを意識する、状況の変化を捉える、目的が分かり見通しをもって行動する、などの力も徐々に培われ、“健康な体づくり”への自覚や関心も高まっていきます。

Q4：幼稚園は、子どもの理解に努めながら個に応じた指導をしていると思いますか。

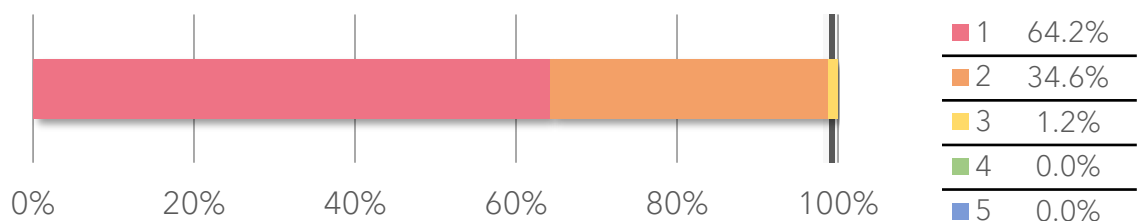


■日々の子どもの姿から適切に幼児理解を深めるために、様々な工夫をおこなっています。毎日の保育記録や保育者同士の語り合い、ポートフォリオからの読み取りなどから個々がどのような育ちの過程にあるか、様々な視点で子どもの行動と内面を捉えています。より広く深い理解となるよう、スクールカウンセラーや巡回アドバイザーとも連携を密にとり、望ましい環境や指導方法などについて話し合いを重ねています。

また、幼児期の発達の道筋やそれに応じた成長を支える保育や環境の充実について、教師自身の資質・能力の向上を図る研修を通して学びを深め、保育実践に生かしています。

今後も保護者の方との連携のもと、子どもの育ちを深く理解し、一人一人に応じる指導を実現し、園生活がより豊かなものとなるよう努めてまいります。

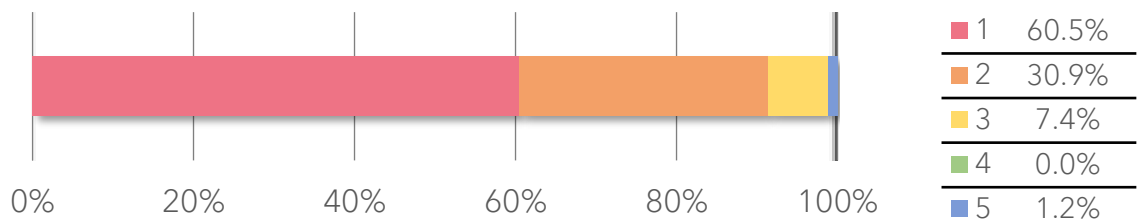
Q5：幼稚園は、子どもの様子や教育内容等を、情報共有しながら連携して保育を実践していると思いますか。



■教育内容の充実に保育者同士の連携は欠かせません。一人の子どもの姿を、それまでの育ちの過程やその子の内面をどう読みとり推し量るか、または背景にある事柄の情報など、多様な価値観、多角的な幼児理解を重ねることで、今本当に必要としている手だてや支援が見えてきます。

幼稚園ではこのような機能が十分に発揮されるような組織力の向上を図り、日々の保育の情報交換や定期的な職員会議だけでなく、課題別プロジェクトチームを組んだ研究推進など意図的・計画的な取組を実践しています。司書や英語指導の講師とも、その都度打合せを行い、子どものより充実した経験につなげています。

Q6：保育室、園庭、校庭、体育館等の環境や取り組みを工夫し、体を動かして楽しむ経験を積み重ねていると思いますか。



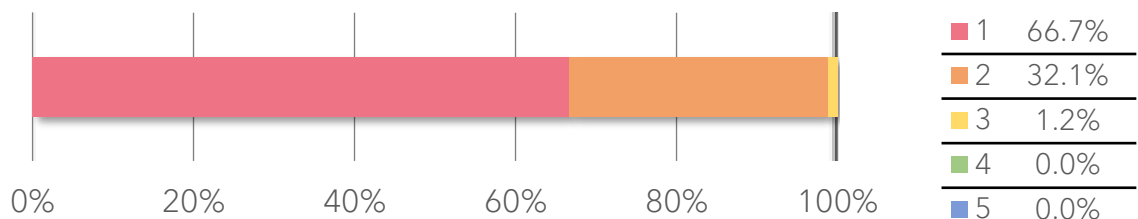
■幼稚園では、保育室、園庭、校庭、体育館など施設の特徴を生かして活用することで、遊びや生活の中で多様な動きを楽しく経験できるよう工夫しています。

体力、運動能力の向上を目指したものもありますが、それ以上に大切なのは、生涯にわたり“体を動かすことが好き、汗を流して動くことは心地よい”という資質の基礎をつくることだと考えます。

大人が場や時間を設定してやらせれば、それに沿ってできる幼児期ですが、今だけやって、今だけ伸びても意味がありません。「楽しそう、やってみたい」「負けて悔しい。でもまたやりたい」「疲れるけれど力を発揮できてうれしい」といった主体的な取組が成長を支えます。また、「体を動かす経験」は運動遊びだけではなく、積み木や巧技台などの遊具を運んだり、ごっこ遊びで好きな動物になりきって表現したりすることも身体を使う遊びです。

運動機能が急速に発達する幼児期にふさわしい遊びや生活を展開していけるよう、今後も工夫ある実践を行ってまいります。

Q7：小学校との交流活動は、小学校への親しみの気持ちや就学への期待を育んでいると思いますか。（運動会練習の見学等も含みます）



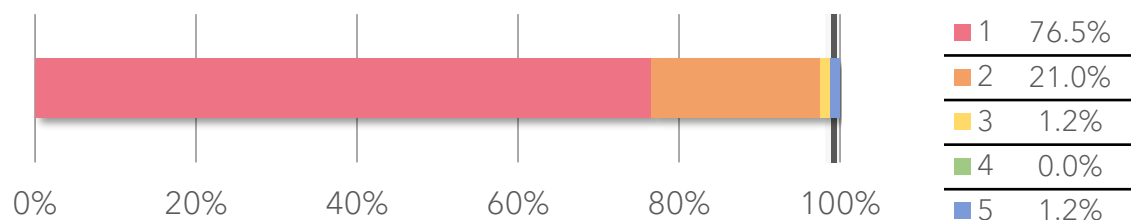
■昨年度まで、感染症を考慮し直接交流は見合わせるが多かった交流活動ですが、今年度は、マスク着用の徹底など配慮しながら、複数の学年との交流を再開しています。

小学校との交流活動を通して、小学生に優しく関わってもらったり、小学生ならではの力を発揮する場面を見たりすることは、あこがれの気持ちや、就学への期待を高めることにつながる貴重な体験となります。

子どもにとっても、立場の違う小学生にどう関わるか考える、小学生の話を聞き必要な情報を得ようとする等の経験は園内ではできない学びです。

今後も、多様な人と関わる豊かな経験や、幼小の学びの接続を意識した交流活動の内容を充実してまいります。

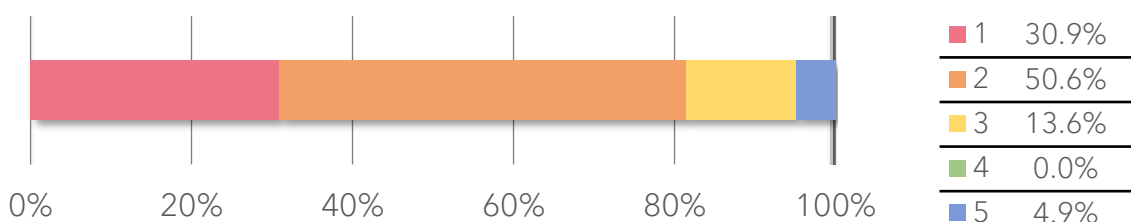
Q8：お茶会やこどもの日・七夕・十五夜・雅楽公演などの伝統行事や季節を味わう活動は、豊かな情操を育んだり自国の文化に親しんだりする経験になっていると思いますか。



■麴町幼稚園では、伝統文化・芸術等の分野で、プロとして活動されたり、多方面で活躍されている方を講師としてお招きしており、子どもたちへの公演や指導は大変質の高い充実した内容となっています。公演では、普段見たり聞いたりすることない異空間となった会場で、息をのんで鑑賞する子どもたちの姿があります。また、こどもの日や七夕、節分など日本古来の季節の行事に親しむ機会も大切にし、そのいわれやそこに込められている人々の願いなどにも興味や関心をもつことができるようにしています。このような経験は、自国の文化への誇りや豊かな感性を育むことにもつながっていくと考えます。

感染状況を見ながらではありますが、今後は、子どもたちだけでなく保護者の皆さまにも、楽しさや感動体験を共に味わっていただく機会を増やしてまいりたいと思っています。

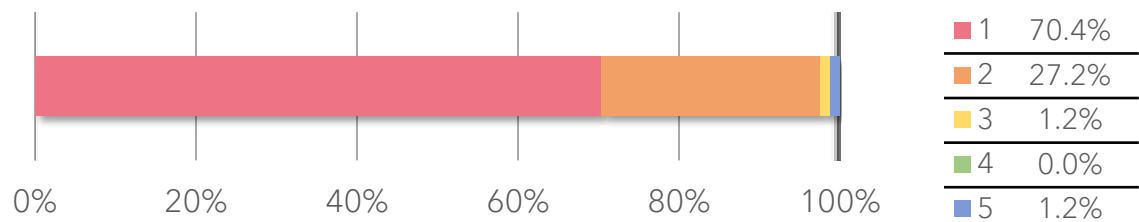
Q9：節電・節水、ごみの分別などを心掛ける生活が、資源を大切にする意識の芽生えを培っていると思いますか。



■幼稚園では、幼児なりに自分たちと環境とのつながりを意識し、自分の立場でできることを実践しようとする子どもを育てていきたいと考え、環境を大切にする行動が習慣化するような環境を工夫しています。しかしながら、取組内容やその発信にはまだ工夫・改善を要する課題が多くあることが、今回のアンケートの結果に表れています。

今年度中に、改めて本課題に対し幼児期に経験させたいことを職員間で協議し、幼稚園として実践していくことを明確にし、次年度の教育に反映してまいります。

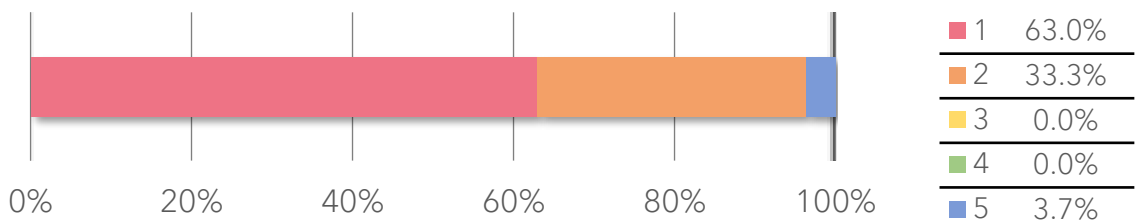
Q10：園庭の環境活用、栽培、飼育など自然や生き物に親しむことを通して、命の大切さや自然の恵みに気付くなど、豊かな心を育んでいると思いますか。



■園庭の植栽物や昆虫、飼育物、季節ごとの自然現象などとの関わりでは、子どもたちにとって驚きや発見、不思議さ、興味・関心を掻き立てる、心躍る出会いがたくさん生まれます。

幼児は、身近な環境に主体的に関わる中で具体的な体験を通して様々なことを学び取っていきます。同じ空間にいても心動かされ、考えたり感じたり向き合っていく対象は一人一人異なります。引き続き、子どもが関心を高め、親しみをもって関わることで学びを深めていけるような園内の自然環境の整備に努めています。

Q11：毎月の避難訓練や安全指導を通して、子どもが自ら身を守ろうとする意識を培っていると思いますか。



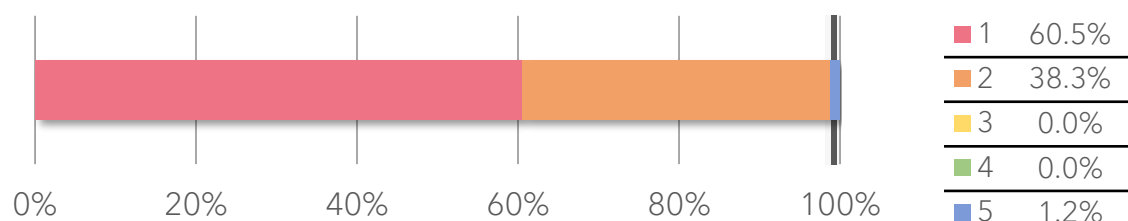
■幼稚園では、子ども自身が安全について考え自ら身を守る意識や態度、習慣を身に付けられるよう、様々な機会を通して日常的に指導を積み重ねています。

避難訓練では、「おかしも※」の約束を守って避難すること、放送や教師の一声で瞬時に「ダンゴムシのポーズ」をとることなどは、毎月の訓練を通して4・5歳児学級は特に、よく身に付いてきました。地震、火事、不審者など想定を変え、園独自の訓練だけでなく幼小合同訓練や館内の全体訓練など多様な形態で計画的に実施しています。

また日々の園生活の中では、危険な遊び方や場所、遊具の扱いなどについてその場で具体的に知らせたり、気付かせたりし、状況に応じた安全な行動を身に付けられるようにしています。積み重ねることで大切さや必要性が分かり、自ら判断して行動する素地につなげています。

※お…押さない か…かけない し…しゃべらない も…戻らない

Q12：配布物や降園時の連絡、面談、ポートフォリオの掲示等から情報を得たり、分からないことは幼稚園に相談したりすることを通して、園の教育への関心や理解が深まっていますか。

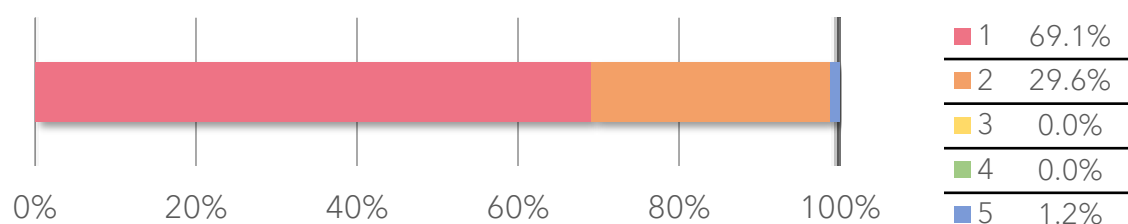


■子どもにとって園生活と家庭生活は、毎日登降園のたびに気持ちをリセットしてそれぞれの生活を再スタートさせていくものではありません。双方での経験や味わった思いを携えて、登園したり家庭に戻ったりしています。子どもたちの生活は、幼稚園と家庭の生活に連続性が生まれることで、双方での経験がより豊かなものとなります。

幼稚園では、ポートフォリオや降園時の担任からの連絡、面談や学級懇談会等で、子どもたちの園生活の様子や教育内容についてお知らせしています。幼稚園の教育に関心をもったり、そこでの情報をきっかけに親子の会話を楽しんだりしていただけることを願っています。

子どもの様子から気になること、ご心配なことなどありましたら、遠慮なく、どうぞ幼稚園にご相談、ご連絡ください。

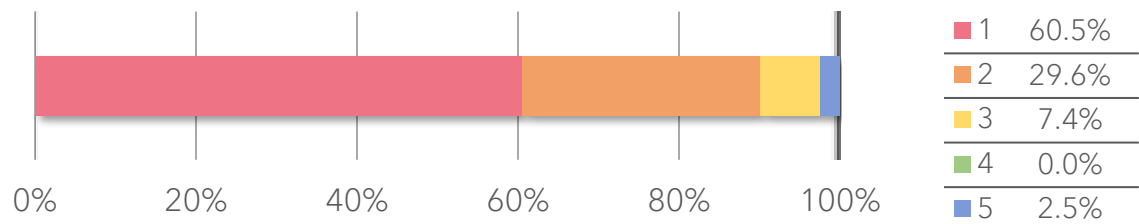
Q13：親子で園生活に期待をもったり、楽しんだりしていますか。



■親子共に期待高まる楽しい園生活は、今回のアンケートに示された、問1~12までの内容が、確実に質が高く実践・実現されていくことにほかなりません。

子どもたち一人一人にとって、生き生きと心と体を弾ませて楽しめる園生活の充実のために、今後ともご家庭との信頼関係を深めながら幼稚園の運営に当たってまいります。

Q14：地域や保護者の方と共に、教育内容を充実していこうとする幼稚園の姿勢を感じますか。



■問12と重なりますが、子どもの生活体験を豊かなものとするためには、地域・家庭との連携は欠かすことのできない大変重要なものです。また PTA 活動を通して子どもたちの安心、安全な生活を支えてくださっていることに深く感謝いたします。

今回のアンケートでは、「わからない」「あまり思わない」の回答が複数ありました。感染症拡大により、保護者の方にご参加いただける保育活動の減少も要因のひとつと思われます。問8でもお示しましたように、今後は、可能な範囲で行事等の参観や保育活動へのお手伝いとしての参加を再開してまいります。

また、「社会に開かれた 教育課程」の実現を目指し、子どもたちの経験・学びの道りを明確に示した「KOJIMACHI カリキュラム」（3年間の教育課程）を、地域・保護者の皆さまと共有してまいります。